

家謂之青精飯、今按世者必藉以南天燭葉蓋本于此。

〔書紀集解持統〕精原作青誤、按精飯謂不用魚肉也、殯宮之奠於此用菜蔬也、

〔小右記〕寃仁元年十一月七日辛丑、入夜宰相來云、今朝左將軍被召乘車、源中納言、房經二位宰相隆相共被向小白河、生炭清談、有鑑飯。許事退歸談承相事不能書記、

〔侍中群要四〕著大盤事

〔式〕殿上食雖似無定事、非無其度、如餧○餧誤、飯、餅、味噌水、芋之類所不用也、

〔侍中群要五〕非常食

〔革長〕於殿上雖有非常食、餧○餧誤、飯、味曾水之類、未曾有也、

〔增補下學集〕飲食○草飯、乘拂之時

〔空華日工集〕至德二年正月十六日參府引同參諸老就大慈草飯、

〔三省錄〕飲食芝の金地院崇傳長老はもと五山の總錄にて寺社奉行なり、○中この寺にては、今に至りて、○中大坂御陣のとき、軍中に用ひし膳部を正月三ヶ日の朝食すること也、○中二日の朝三日の朝、この兩朝は小齋と名付て、左之通の膳部也、

一小キぶんぬきの飯、一汁干豆○中略

これ彼院ニテ、大坂御陣中の御膳部也と申傳ふ、○中略

〔侍中群要四〕大盤問事

〔家〕大盤已刻也、○中抑朝大盤之時、下物自御厨子所所渡也、○中御厨子所之物疎惡之時、召彼所衆於殿上前加勘責、又殿上飯疎惡不法之時、藏人著青召大炊寮官人、於所勘責并令計定飯之盛様、令居校書殿西長押者、

大盤事